

**般社団法人 日本原子力学会 標準委員会**  
**第 62 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録**

1. 日時 2015 年 3 月 6 日 (金) 15:30~17:00
2. 場所 5 東洋海事ビル A+B 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
(出席委員) 新堀副部長, 加藤幹事, 内山, 小畑, 熊谷, 小山, 坂下, 仙波, 高橋, 仲神, 深澤, 藤田 (途中退室), 柳原, 山本 (14 名)  
(代理出席委員) 渡邊紀志 (東京工業大学/有富代理), 都築宣嘉(東京工業大学/木倉代理), 塩見隆行 (関西電力/藤井代理), 池田整 (原子力安全推進協会/川上代理) (4 名)  
(欠席委員) 大島, 大久保, 金木, 中島, 平井 (5 名)  
(委員候補) 上田真三(三菱マテリアル) (1 名)  
(欠席常時参加者) 丸岡 (1 名)  
(説明者) [LLW 廃棄体等製作・管理分科会] 柏木誠 (委員/日揮), 都筑康男 (委員/原子力安全推進協会) (2 名)  
(オブザーバ) 寺門範充 (新金属協会), 吉原恒一 (原子力安全推進協会) (2 名)  
(事務局) 中越, 谷井 (2 名)

4. 配付資料

- |           |   |
|-----------|---|
| FTC62-0   | 第 62 回原子燃料サイクル専門部会議事次第                          |
| FTC62-1   | 第 61 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)                       |
| FTC62-2   | 人事について  |
| FTC62-3-1 | 「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法 (案)」 書面投票結果報告           |
| FTC62-3-2 | 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)の標準委員会書面投票コメント一覧表      |
| FTC62-3-3 | 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)の標準委員会書面投票コメントへの変更点比較表 |
| FTC62-3-4 | 第 61 回原子燃料サイクル専門部会コメント及び対応一覧 (2014 年 11 月 18 日) |
| FTC62-3-5 | 第 59 回標準委員会コメント (2014 年 12 月 12 日)              |
| FTC62-4   | 原子燃料サイクル専門部標準策定スケジュール (案)                       |
| FTC62-5   | 分科会活動状況報告                                       |

参考資料

- |            |                  |
|------------|------------------|
| FTC62-参考 1 | 原子燃料サイクル専門部会委員名簿 |
| FTC62-参考 2 | 標準委員会の活動状況       |

## 5. 議事内容

事務局から開始の時点で委員 23 名中、代理委員を含む 18 名の出席があり、成立に必要な委員数（16 名以上）を満足している旨報告された。

### (1) 前回議事録の確認 (FTC62-1)

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

### (2) 人事について (FTC61-2)

事務局から配付資料 FTC62-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について下記のとおり審議を行った。

#### 【原子燃料サイクル専門部会】

専門部会での人事について以下の提案があった。

##### 1) 委員退任の確認

江頭 哲郎（三菱マテリアル）

##### 2) 委員選任の決議

上田 真三（三菱マテリアル）

##### 3) 委員再任の承認

新堀 雄一（東北大学）

高橋 邦明（日本原子力研究開発機構）

藤田 智成（電力中央研究所）

山本 正史（原子力環境整備促進・資金管理センター）

大久保 和俊（原子燃料工業）

坂下 章（三菱重工業）

仙波 毅（原子力安全推進協会）

審議の結果、提案は決議又は承認された。また、江頭委員の退任についての提案は退任日付の誤記 2104 年 11 月 30 日を 2014 年 11 月 30 日に修正することで確認された。

#### 【分科会】

分科会での人事について以下の提案があった。

##### 1) 委員退任の確認

###### L L W 処分安全評価分科会

・市来 孝彦（旧 原子力安全基盤機構）

・齋藤 典之（東京電力）

・田中 健一（日本原子力発電）

・稲継 成文（関西電力）

・河西 基（電力中央研究所）

・江橋 健（原子力発電環境整備機構）

・坂下 章（三菱重工）

- ・木村 英雄（日本原子力研究開発機構）

2) 委員選任の承認

L L W処分安全評価分科会

- ・武田 聖司（日本原子力研究開発機構）

3) 常時参加者登録の確認

L L W処分安全評価分科会

- ・辻 智之（日本原子力研究開発機構）
- ・田村 明男（原子力安全推進協会）
- ・黒沢 満（三菱マテリアル）
- ・牧内 秋恵（原子力発電環境整備機構）
- ・市来 孝彦（原子力規制庁）

4) 常時参加者登録解除の確認

L L W処分安全評価分科会

- ・石原 信秋（四国電力）
- ・小林 慎一（新金属協会）
- ・安田 裕司（原子力安全推進協会）

審議の結果，提案は承認又は確認された。

(3) 【報告・審議】「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX（案）」の標準委員会決議投票の結果及びその対応(FTC62-3-1, FTC62-3-2, FTC62-3-3, FTC62-3-4, FTC62-3-5)

事務局から配付資料 FTC62-3-1 に基づいて，“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX（案）”については標準委員会決議投票の結果，可決されたことが報告された。引き続き，L L W廃棄体等製作・管理分科会の柏木委員，都筑委員から FTC62-3-2, FTC62-3-3, FTC62-3-4, FTC62-3-5 に基づいて，“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX（案）”の標準委員会決議投票で出た意見への対応並びに第 61 回原子燃料サイクル専門部会及び第 59 回標準委員会が出た意見への対応状況について報告があった。主な質疑は以下のとおり。

C：標準委員会コメント一覧表（FTC62-3-2）コメント No.2 にある「充材なし」を「充填材なし」に修正すること。

A：拝承。修正します。

C：変更点比較表（FTC62-3-3）の No.3 の文章を次の様に修正すること。

- ・～これらによる緩やかな化学反応は対象とはならない。  
⇒～これらによる緩やかな化学反応を生じる物質は対象とはならない。
- ・また，最後の文章は「制限物質」を主語とし，密閉性に大きな影響を与える制限物質が何かを明確な文章にすること。
- ・それに関する注記が「二重表現の回避」と記載されているが，長期の緩やかな化学反応の影響は，安全評価で評価することを記載した方が良い。

A：以上3点のコメントを拝承し、修正します。また、標準委員会コメント一覧表（FTC62-3-2）コメント No.3 の対応案も合わせて修正します。

C：第59回標準委員会コメント（FTC62-3-5）コメント No.3 の「容器に封入と固型化」の説明（対応）は、放射性物質が容易に拡散しない、容易に拡散するような廃棄物区別で、次のように修正すること

- ・放射化金属等の、容易に放射性物質が漏えい・拡散しない廃棄物は、容器に封入。

液体状の廃棄物など、そのままでは、放射性物質の漏えい・拡散が容易な廃棄物は、固型化を要求しています。

A：拝承。修正します。

C：同資料の最後の「書面投票に掛けることで承認される」は、全会一致で承認されたことを追記のこと。

A：拝承。修正します。

審議の結果、1)提案するコメント対応内容は編集上の修正であること及び2)上記内容を標準委員会で説明することが決議された。

#### （4）【報告・審議】標準策定スケジュール（案）（FTC62-4）

原子燃料サイクル専門部会の加藤幹事から配付資料 FTC62-4 に基づいて、標準策定スケジュール（案）について報告があった。主な質疑は以下のとおり。

C：“クリアランス判断方法：2005（AESJ-SC-F005）”については、“検討中”を削除する必要がある。

C：“浅地中トレンチ処分の安全評価手法：2013（AESJ-SC-F024-2013）”については、“3月発行予定”を“3月発行”に修正する必要がある。

C：“余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件：2009（AESJ-SC-F014:2009）”については、黒でマーキングしている H25.2 月末までを H26.1 月末までに修正する必要がある。

C：“ピット処分対象廃棄体の製作方法及び検査方法（案）”については、H27 年度にマーキングしている部分を H25 年度に移動させる必要がある。

C：低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方：2010（AESJ-SC-F016:2010）及び“トレンチ処分施設の施設検査方法（AESJ-SC-F017:2010）、ピット処分施設の施設検査方法、（AESJ-SC-F018:2010）”・余裕深度処分施設の施設検査方法“のスケジュールが記載されていないため記載する必要がある。

Q：制定5年目に改定不要の判断をすれば、その後5年間はそのような判断を行う必要がないという運用か。

A：

5年毎に改定要否の判断を行うことになる。(改定の要否を検討する時期については、必ずしも5年毎という規定はなく、当該分野における規格基準など標準類との整合性などの観点から改定の要否の検討を適宜に行う必要があると考えるべきであることが会議後に判明した。)

C：標準を発行したため活動を停止しているいわゆる休眠中の分科会での5年毎の標準改定可否の検討のあり方は、委員全員が2年の任期切れとなるため難しい(分科会委員は、標準委員会の規程類では任期を定めていないが、これまで委嘱状で任期を定めていた場合があり、任期の更新が行われていない場合は任期切れとなっていることが会議後に判明した)。

Q：標準の作成スケジュール等について専門部会幹事が議論した場があったと記憶するが。

A：標準活動検討タスクがそれである。

これに替わり、この度、標準活動基本戦略タスクが設置された。作成スケジュールを含め、活動を停止した休眠中の分科会での5年毎の標準改定可否の検討のあり方についても、このタスクでの検討課題として事務局から提案していきたい。

審議の結果、意見を反映した案を標準委員会で報告することが決議された。

#### (5) 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況について(FTC62-5)

事務局配付資料 FTC62-5 に基づいて、”原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況について”について報告があった。主な質疑は以下のとおり。

C：”使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：2006 (AESJ-SC-F006:2006)”の欄“1.進捗状況”での“現在発行準備中。・議題5.にて附属書Cの記載修正報告あり”の記載は削除すべきである。

Q：標準発行日については関係者にその連絡がされているのか。

A：標準が発行された時点で事務局から連絡している。

今後、標準発行についての最新内容は事務局として確認する。

#### (5) その他(次回日程)

・次回第63回原子燃料サイクル専門部会は、6月2日(火)午後から開催することとなった。

以上